



第53回

青木コレクションは、栃木県出身の実業家の青木藤作（1870～1946）が大正から昭和初期にかけて収集した作品で、平成9年（1997）2月に氏の遺族から馬頭町（現那珂川町）に寄贈されました。青木コレクションは貴重な広重の肉筆画を含むことが知られていますが、近代の画家の作品も数多く含まれています。

近代は、西洋美術の概念用語や価値体系の流入により、日本美術に大きな変化が訪れた時代です。日本で「美術」ということばが初めて用いられたのも、明治6年（1873）ウィーン万博の出品規定においてでした。また、近代以降日本絵画には「洋画」と「日本画」という区別が生まれず。「洋画」あるいは「西洋画」は、西洋絵画だけではなく、日本で制作された西洋絵画の素材・技法を用いた作品に対しても用いられました。

図は川村清雄の「梅に雀」。川村清雄は近代日本における洋画草創期の画家の一人です。梅の枝で羽を休める雀の姿を写実的に捉えた作品です。本図は、板に漆を薄く塗り、その上に油彩で描いたものです。清雄は単に西洋絵画の追随をするのではなく、日本ならではの油彩画の可能性を模索していました。漆という日本美術で伝統的に用いられる素材を利用した油彩画である本図は、清雄の作画姿勢をよく表していると言えるでしょう。

藤作は川村清雄の洋画、京都日本画の系統に属

— 企画展 —

青木コレクション展 『近代洋画と日本画を中心に①』



「梅に雀」川村清雄 当館蔵

しながら『国民新聞』に勤めた久保田米僊の日本画などを好み、数多く所有していました。本展では青木コレクションの洋画と日本画を中心に展示し、両者の比較を行うことで近代日本絵画の様相の一端を明らかにしたいと思います。

那珂川町馬頭広重美術館 学芸員 河野結美

【会 期】 2月25日（木）～4月11日（日）

【開館時間】 午前9時30分より午後5時まで
（但し入館は4時30分まで）

【休 館 日】 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）

【ミュージアム・トーク（展示解説）】

2月27日（土）（要観覧料）

*毎月第3日曜日は「家庭の日」です。お子様（中学生以下）連れのご家族は、観覧料が無料になります。

ミニギャラリー 作品募集！

あなたの作品をここに展示してみませんか？

絵画、写真、絵手紙などの作品をお待ちしております。

申し込み・問合せ：企画財政課

☎0287-92-1114



入選「花の風まつり」
矢野健一郎（日光市）

ミニ ギャラリー

ばとう道の駅
写真コンテスト
受賞作品



入選「孫を気づつ」

江川多嘉（宇都宮市）